

令和8年度病害虫発生予察予報第3号(令和8年6月)

令和8年6月4日
高知県病害虫防除所

《予報の概要》

作物名	病害虫名	予想発生量※
水稲 (早期稲)	いもち病 ツマグロヨコバイ ヒメトビウンカ 斑点米カメムシ類	<u>やや多(県下全域)</u> 平年並(県下全域) 平年並(県下全域) <u>多(県下全域)</u>
水稲 (普通期稲)	いもち病 セジロウンカ スクミリンゴガイ	<u>やや多(県下全域)</u> 平年並(県下全域) <u>多(東、西)、やや多(中央、中西)</u>
カンキツ類 (温州ミカン)	そうか病 黒点病 ミカンハダニ	<u>多(中央)</u> 少(中央) <u>やや多(中央)</u>
カンキツ類 (中晩柑類)	そうか病 黒点病 かいよう病 ミカンハダニ ミカンハモグリガ	<u>多(中西、西)</u> 、やや少(東)、少(中央) <u>多(東、中央)</u> 、平年並(中西)、少(西) やや少(県下全域) <u>多(東)、やや多(中央、中西)</u> 、少(西) <u>多(東)、やや多(中西)</u> 、少(中央、西)
果樹類	果樹カメムシ類	<u>多(中央)</u>

- ※ ()内の表記 東：県東部、中央：県中央部、中西：県中西部、西：県西部
 県東部：安芸市、室戸市および安芸郡の町村
 県中央部：高知市、南国市、香美市、香南市、長岡郡・土佐郡の町村、
 吾川郡いの町および高岡郡日高村
 県中西部：土佐市、須崎市、高岡郡(日高村を除く)町村および吾川郡仁淀川町
 県西部：四万十市、宿毛市、土佐清水市および幡多郡の町村

I 気象予報(高松地方気象台5月28日発表)

5月30日から6月29日までの天候見通し

<予想される向こう1か月の天候>

暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。期間のはじめに台風第6号や湿った空気の影響を受けるため、向こう1ヶ月の降水量は多いでしょう。平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は高い確率70%です。降水量は多い確率、平年並ともに40%です。日照時間は、平年並の確率が40%です。

週別の気温は、1週目は高い確率が80%です。2～4週目は高い確率が60%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

期間	対象地域	要素	低い(少ない)		平年並	高い(多い)
1か月	四国地方	気温	10	20	70	
		降水量	20		40	40
		日照時間	30		40	30

<気温経過の各階級の確率(%)>

期間	対象地域	低い		平年並	高い
1週目	四国地方	10	10	80	
2週目		10	30	60	
3～4週目		10	30	60	

<予報の対象期間>

1か月：5月30日(土)～6月29日(月)

1週目：5月30日(土)～6月5日(金)

2週目：6月6日(土)～6月12日(金)

3～4週目：6月13日(土)～6月26日(金)

II 病虫害発生予想

1 早期稲の病虫害

1) いもち病(葉いもち)

予 想 発生量：やや多(県下全域)

根 拠

- (1) 5月の調査では、発生は見られなかった。
- (2) 例年6月は中央部・西部では発生が増加し、東部・中西部でも発生が見られる傾向にある。
- (3) BLASTAM(葉いもち発生予測システム)では、5月21日以降感染好適日の出現が県下全域、複数の地点で確認されている(BLASTAMによる葉いもち発生予測判定状況は病虫害防除所HPを参照)。

(4) 6月の気温は高く、降水量は平年並か多いと予想されているため、発生に好適な条件になると考えられる。

対 策

- (1) 気象や発生状況に注意し、進行型病斑を認めたら速やかに薬剤防除を行う。
- (2) QoI剤耐性菌発生を防止するため、QoI剤の使用回数は作期を通じて1回とする。
- (3) 窒素過多は発病を助長するので、穂肥等の施用は生育状況を見ながら適切に行う。

2) ツマグロヨコバイ

予 想 発生量:平年並(県下全域)

根 拠

- (1) 5月の調査では中央部で発生が見られたが、発生面積は平年より少なく、発生程度は平年並だった
- (2) 例年6月は中央部・西部では発生が増加し、東部、中西部では同程度の発生が続く傾向にある。
- (3) 6月の気温は高いと予想されているため、本虫の発生は増加し、未発生地域においても発生が見られるようになると考えられる。

対 策

近年、本虫の媒介する萎縮病の発生はほとんど見られていないことから、低密度時に薬剤防除を実施する必要はない。しかし、出穂期から登熟期にかけて本虫の密度が高くなると、もみの充実が悪くなることがあるので、その場合は他の病害虫とあわせて防除を行う。防除に使用する薬剤はクモ類その他捕食性天敵に比較的影響の少ないものを用い、天敵類の保護につとめる。

3) ヒメトビウンカ

予 想 発生量:平年並(県下全域)

根 拠

- (1) 5月の調査では、発生は見られなかった。
- (2) 例年6月は中央部で増加し、その他の地域でも発生が見られるようになる。
- (3) 6月の気温は高いと予想されているため、本虫の発生は増加し、現在未発生地域でも発生が見られるようになると考えられる。

対 策

本県では、本虫の媒介する縞葉枯病がほとんど発生していないため本虫を対象にした薬剤散布の必要性は低いですが、発生が多い場合は他の病害虫との同時防除を行う。

4) 斑点米カメムシ類

予 想 発生量:多(県下全域)

根 拠

- (1) 5月の調査ではほ場での発生は見られなかったものの、聞き取りにより中央部でミナミアオカメムシの寄生が確認された。
- (2) 県内2地点に設置した予察灯において、ミナミアオカメムシが平年より多く誘殺されている。
- (3) 6月の気温は平年より高くなると予想されており、今後、カメムシ類の活動が活発になると考えられる。

対 策

出穂期の加害により不稔となる恐れがあるため早期発見に努め、発生が見られるほ場では出穂期に薬剤防除を実施する。

2 普通期稲の病害虫

1) いもち病(葉いもち)

予 想 発生量: やや多(県下全域)

根 拠

- (1) 例年6月は中央部・中西部・西部では発生が増加し、東部でも発生が見られる傾向にある。
- (2) BLASTAM(葉いもち発生予測システム)では、5月21日以降感染好適日の出現が県下全域、複数の地点で確認されている(BLASTAMによる葉いもち発生予測判定状況は病害虫防除所HPを参照)。
- (3) 6月の気温は高く、降水量は平年並か多いと予想されているため、発生に好適な条件になると考えられる。

対 策

- (1) 気象や発生状況に注意し、進行型病斑を認めたら速やかに薬剤防除を行う。
- (2) QoI剤耐性菌発生を防止するため、QoI剤の使用回数は作期を通じて1回とする。

2) セジロウンカ

予 想 発生量: 平年並(県下全域)

根 拠

- (1) 5月の早期稲の調査では発生は見られていない。
- (2) 例年6月は県下全域で発生が見られるようになる。
- (3) 西日本では主に6月中旬から7月中旬にかけて飛来が見られるため、今後発生が懸念される。

対 策

飛来が多い場合はほ場内での発生に注意し、成虫数が株当たり5頭以上になったときは薬剤防除を行う。

3) スクミリンゴガイ

予 想 発生量: 多(東部、西部)、やや多(中央部、中西部)

根 拠

- (1) 5月の早期稲の巡回調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は西部で多く、東部でやや多く、中央部・中西部は平年並だった。発生程度は西部で高く、東部・中央部・中西部で平年並だった。
- (2) 昨年6月の発生面積は、平年と比べて東部・中央部で多く、中西部でやや多く、西部でやや少なかった。
- (3) 6月の気温は高いと予想されていることから、活動は活発になり、移植後は被害を受けやすいと考えられる。

対 策

- (1) 水中で食害するので、発生ほ場では田植後2～3週間はできるだけ浅水管理(水

- 深4 cm以下)を行う。ただし、薬剤処理時や低温時には湛水状態とする。
- (2) 水路からの侵入を防止するため、取水口や排水口に金網等(約5 mm目合)を設置するとともに、発生した貝と卵塊を捕殺する。
 - (3) 貝の発生が多い場合には薬剤の本田施用を実施する。

3 カンキツ(温州ミカン)の病害虫

1) そうか病

予 想 発生量:多(中央部)

根 拠

- (1) 5月の調査では発生面積は平年より多く、発生程度は高かった。
- (2) 例年6月は減少する傾向があるが、6月の降水量は平年並か多いと予想されており、曇雨天の日が多くなる見込みであることから、既発ほ場を中心に多発生で推移すると考えられる。

対 策

幼木や発生の多い園地では、黒点病との防除を兼ねた予防的な薬剤散布により感染を防ぐ。また、防風垣などの整枝を行い、園地の通風をよくする。

2) 黒点病

予 想 発生量:少(中央部)

根 拠

- (1) 5月の調査では、調査ほ場では発生が見られなかった。
- (2) 例年6月はやや減少する傾向がある。
- (3) 6月の降水量は平年並か多いと予想されており、曇雨天の日が多くなる見込みであることから、既発ほ場を中心に発生は増加し、未発ほ場でも発生する可能性があると考えられる。

対 策

- (1) 密植園での間伐、老木の更新、防風垣の整備等により、枯枝ができるだけ発生しないように管理する。
- (2) 前回の防除以後の累積降雨量が250mm前後に達した時点で次の散布を行う。一般的には5月中下旬から7月上旬の間に3回程度、8月下旬から9月上旬にかけて1～2回散布する。発病の多いほ場では適宜散布回数を増やす。

3) ミカンハダニ

予 想 発生量:やや多(中央部)

根 拠

- (1) 5月の調査では、発生面積は平年よりもやや多く、発生程度は平年並であった。
- (2) 例年6月は5月から微増する傾向がある。
- (3) 6月の気温は高く、増殖に適した条件であるが、降水量は平年並か多いと予想されているため、現在の発生量で推移すると考えられる。

対 策

薬剤抵抗性の発達を回避するため、異なった系統の薬剤によるローテーション防除を心がける。

4 カンキツ(中晩柑類)の病害虫

1) そうか病

予 想 発生量:多(中西部、西部)、やや少(東部)、少(中央部)

根 拠

- (1) 5月の調査では、発生面積は中西部・西部で多く、東部では少なく、中央部では確認されなかった。発生程度は中西部・西部で高く、東部で低かった。
- (2) 例年6月は東部・西部では増加し、中央部・中西部では減少する傾向が見られる。
- (3) 6月の降水量は平年並か多いと予想されており、曇雨天の日が多くなる見込みであることから、発生は増加すると考えられる。

対 策

幼木や発生の多い園地では、黒点病との防除を兼ねて、予防的な薬剤散布により感染を防ぐ。また、防風垣などの整枝を行い、園地の通風をよくする。

2) 黒点病

予 想 発生量:多(東部、中央部)、平年並(中西部)、少(西部)

根 拠

- (1) 5月の調査では、発生面積は東部・中央部で多く、中西部でやや少なく、西部では確認されなかった。発生程度は東部で高く、中央部でやや低く、中西部で低かった。
- (2) 例年6月は東部では前月と同程度の発生、中央部・中西部・西部ではやや減少する傾向がある。
- (3) 6月の降水量は平年並か多いと予想されており、曇雨天の日が多くなる見込みであることから、既発ほ場を中心に発生は増加し、未発生ほ場でも発生する可能性があると考えられる。

対 策

- (1) 密植園での間伐、老木の更新、防風垣の整備等により、枯枝の発生ができるだけ少なくなるように管理する。
- (2) 前回の防除以後の累積降雨量が250mm前後に達した時点で次の散布を行う。一般的には5月中下旬から7月上旬の間に3回程度、8月下旬から9月上旬にかけて1～2回散布する。発病の多いほ場では適宜散布回数を増やす。

3) かいよう病

予 想 発生量:やや少(県下全域)

根 拠

- (1) 5月の調査では発生は確認されなかった。
- (2) 例年6月は県下全域で増加する傾向がある。
- (3) 新葉展開期から伸長停止期までは気孔感染し、その後組織が硬化すると、風による傷口やミカンハモグリガの食害痕から感染する。6月2日の台風6号の接近or上陸による強風での被害や、ミカンハモグリガの発生により、例年より発病が増加すると考えられる。

対 策

銅剤等の散布による予防に努めるとともに、発病がみられる夏秋梢は剪定、除去する。

4) ミカンハダニ

予想 発生量:多(東部)、やや多(中央部、中西部)、少(西部)

根拠

- (1) 5月の調査では、発生面積は東部で多く、中央部でやや多く、中西部で平年並、西部では確認されなかった。発生程度は東部で高く、中央部でやや高く、中西部でやや低かった。
- (2) 例年6月は東部・中西部・西部は増加し、中央部は同程度発生する傾向がある。
- (3) 6月の気温は高いものの、降水量は平年並か多いと予想されているため、現在の発生量で推移すると考えられる。

対策

薬剤抵抗性の発達を回避するため、異なった系統の薬剤によるローテーション防除を心がける。

5) ミカンハモグリガ

予想 発生量:多(東部)、やや多(中西部)、少(中央部、西部)

根拠

- (1) 5月の調査では、発生面積は東部でやや多く、中西部で平年並の発生であった。その他の地域では発生は確認されなかった。発生程度は中西部では高く、東部ではやや高かった。
- (2) 例年6月は県下全域で増加する傾向がある。
- (3) 6月の気温は高いと予想されているため、発生量は増加すると考えられる。

対策

- (1) 本種は、新葉、新梢を加害するので、栽培管理に注意してできるだけ新芽の出る時期をそろえ、防除期間を短くする。
- (2) 防除は夏葉の被害防止に重点をおく。発芽初期の防除が大切であるので、防除時期が遅れないように注意する。

5 果樹類の病害虫

1) 果樹カメムシ類

予想 発生量:多(県下全域)

根拠

- (1) 5月の調査では、カンキツ(中晩柑類)において、発生面積・程度は全域で多及び高であり、調査ほ場以外でも県内複数の果樹園での発生が確認された。
- (2) 県内4地点に設置したフェロモントラップによる5月の誘殺数は、県下全域で平年より多かった。また、県内2地点に設置した予察灯においても、ツヤアオカメムシ・ミナミアオカメムシが平年より多く誘殺された。
- (3) 6月の気温は平年より高くなると予想されており、今後、果樹カメムシ類の活動が活発になると予想される。

対策

果樹園周辺の雑木林から飛来してくるので、ほ場内をよく観察し、飛来を確認したら速やかに防除を実施する。

農作物の病虫害防除のための情報です。お気軽にご利用ください。

病虫害防除所ホームページ(こうち農業ネット)<https://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/?sid=2016>

- ①病虫害発生予察月報、病虫害発生予察予報
- ②病虫害発生予察注意報、病虫害発生予察警報、病虫害発生予察特殊報
- ③病虫害発生予察技術資料
- ④新しく問題となっている病虫害 etc.

高知県農薬情報システム <https://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/haishinfile/list/kochi>

- ①農薬の検索
- ②農薬データの一覧
- ③配信ファイルの閲覧(農薬安全使用、病虫害防除指針 etc.)